第四次孕大戦勃発！
はらませ
テレちゅーっ！

「おお～延珠ちゃんのおパンツの色は白か～」
「み、見るな馬鹿！お前達いい加減にしないと・・っ！」
「コイツ急に力が！オイ！やるならさっさとしろって！」
「ごめんごめんwそれじゃ失礼して・・」
「なっ!?や、やめ・・っ！」
ぎゅっ！
ぐぐっ
ぐぐっ
バサッ

『さ、さすがにきっつ！』
『あ…っ…がっ！そ、そんなの入らな…っ！』
『奥まで一気にいくよ延珠ちゃん！』
『む、ムリ！絶対ムリだからっ！は、離し…っ
きっ…！いいいいいいいっっっ！！』
ずぶ！
ギリッ！
ぶちっ
ぶちっ！

「はあっはあっ！延珠ちゃんのキツキツロリマン最高だよっ！」
「あっ、ぅあっ！わ、わらわの初めてが・・っこ、こんな奴に・・ひぐっ、えぅぅっ・・・！」
「あぁ～その泣き顔も可愛くて延珠ちゃんとの子作りが捗る捗るぅっ！」
「や・・やだっ・・子作りやだっ・・・！お、お前なんかと・・あっ！あっ！あぁぁっ！」
ぐすっ
ガク
ぱちゃっ！
ぐちゃっ！
ぎちっ
みちっ
すぢゃっ！
ガクッ

「あぁ～出る出る！延珠ちゃんの子宮に子種汁注入ううっ！」
「・・・え・・・あ・・・？」
「あぁ～延珠ちゃんのキツマン良すぎて射精止まらないわぁ～」
「何だ・・コレ・・？わらわの中にどんどん入って・・わらわは今・・何を・・・されて・・？」
ずくんっ
ずくんっ
ずくんっ
ずくんっ
べゃっ！
べゃっ！

「ほらほら延珠ちゃんっ、延珠ちゃんの子宮に赤ちゃんの素入っていってるのわかるかな？」
「・・うっ・・ひぐっ・・ぐすっ・・へんなの・・いっぱい入ってきて・・おなか・・熱いのぉ・・」
「・・・あーまた勃ってきた・・延珠ちゃんがいけないんだからね・・？」
「う・・ひう・・えぐっ・・え・・？」
ぐすっ
ぐすっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ゾクッ
トクッ
トクンッ

「やだやだっ！もうやだぁっ！」
「はあっはあっ！病み付きになるこのロリマンコ！
延珠ちゃんが孕むまでずっとセックスしてようね！」
「やぁ！せっくすもうやらぁ！
たすけて…助けてれんたろーっ！」
「ああぁ～出る出る赤ちゃんの素！
また延珠ちゃんのお腹に届けてあげるね！」
「いや…あ…あああぁぁぁぁぁっっ！！」
はっ
はっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴく

「な…何…コレ?は…はずれない…っ」
「そりゃー結構金掛かったからねぇ簡単に外れてもらっちゃ困るって」
「な…なんで…!…こんな事…」
「なんでってそりゃ…」
ぐぃっ
ぐぃっ
ぐすっ
ぬぷ

「ーーあ…あ…ぁ…」
「ぃ…ぁ…ぁ…」
「ーーあ…あ…ぁ…ぁ…ぁ…ぁ…」
「ーーあ…あ…ぁ…ぁ…ぁ…ぁ…」
「ぃ…ぁ…ぁ…」
「ーーあ…あ…ぁ…ぁ

「おほっ、呪われたなんちゃらっていってもマンコの具合は変わらないのなっ！」
「い・・痛っ・・・！やっ・・やめ・・っ！やめてくださ・・あああっ！」
「おお悪い悪い、変わらないってのは失礼かちっさくてギチギチの良いマンコだよ、ハハハ！」
「そっ、そんなのっ、どうでも・・っ！こっ、こんなのっ・・いゃ・・いやです・・っ！」
ずぶぐちゅ
ゴッ
ゴッ
がく
ずぶちゅ

「いやよいやよもってなぁっ！とりあえず初体験の記念に一発孕んでみようかぁっ！」
「お、お願いしますっ！それだけは…っそれだけはやめ…っ！」
「おぉ～さすが初物ロリマンコ！特濃ザーメンが出るわ出るわ！」
「…あ…ゃ…いや…いや！いやあああああぁぁぁぁっっっ！」
ゴポッ
ベゴッ
ベゴッ
ベゴッ

「ふう…我ながら結構な量だったなこりゃ」
「…あ…あ…こ…こんなのって…これじゃ…ホントに…赤ちゃん…」
「オイオイこれくらいで放心かい？まだまだ楽しもうぜぇ翠ちゃん？」
「そ…んな…いや…許して…許してください…」
はっ
はっ
ぺっ
ぺっ
ぺっ
ごぽ…

「あ…ありがとう…ございます…」
「やり直しいっ！教えた通りにもう一回！」
「ひぎっ！…か…固くて逞しいおチンポと…ひんっ！
…濃厚チンポミルクを…恵んでいただき…んうう！
あ…ありがとう…ございます…っ！」
「合格！褒美にもう一発くれてやろう！」
「あ…あああああっ！」
ずぶっ
ずぶっ
ずぶっ
ずぶっ
ぶちゅっ
ぶちゅっ

「ほぉら今度はお股開いてみようか～？」
「や…は…恥ずかしいです…な…何する気…なんですか…？」
「大丈夫大丈夫、恥ずかしい事なんてないからおじさんと一緒にとーっても気持ち良くなるだけだからさ」
「気持ち…良く…？」
ぐぐ
ぐぐ
がばっ

「最初はちょっと痛いかもだけど我慢してね、っとぉっ！」
「っっっっっっっっ!?」
「奥まで一気に…フン！」
「あぎっ！痛っうっ！や…やめ…っぎっ、ひいいいっ！」
ずぶっ！
ぎりっ
ずくっ！
ぶちっ！
ぶちっ！

「あぁ～初めてなのにおじさんのチンポにきっちり絡み突いて・・なんていやらしいロリマンだ～」
「あっ、がっ！い、痛っ！いやぁっ！な、なんで、こんなっ！」
「君がお金に困ってるみたいだったからねこれからはおじさんがずっと面倒をみてあげるよっこれはそのための第一歩さっ！」
「お金っ、なんてっ、いらないからっ！や、やめてっ・・・！は・・離してくださ・・あああぁっ～！」
ずちゅっ！
きちっ
みちっ
ぐちゅっ！
ぐちゅっ！

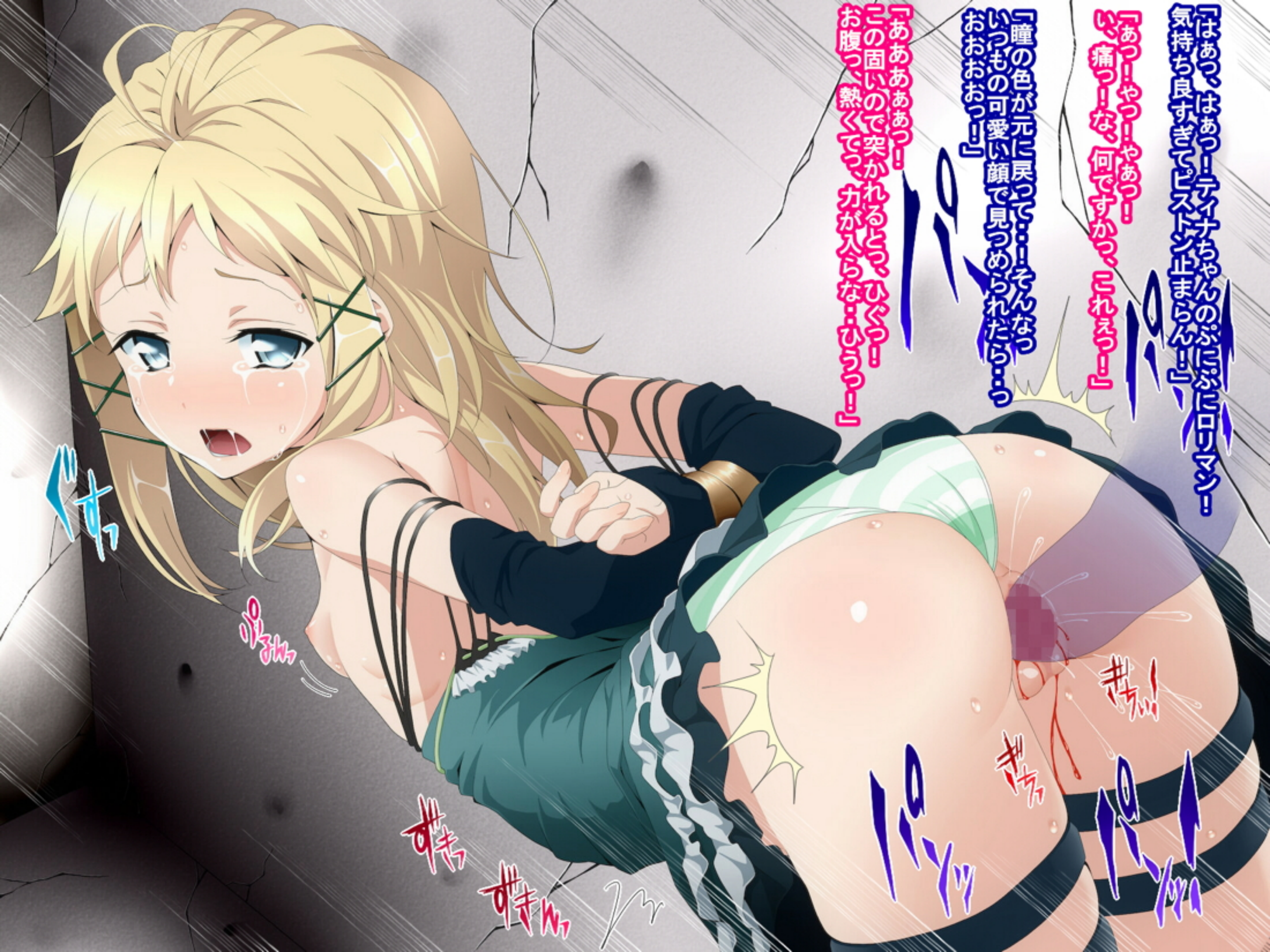
「あぁ～出る出る！作ろう！君とおじさんの赤ちゃん！」
「な・・何か入って・・いや・・こ、怖い・・っ！や、やめ・・っ！」
「まだまだ濃いのが出るわ出るわ！この孕み汁は妊娠確実っ！」
「あっ、うぁ・・いゃ・・いやっ！いやあああああっ！」
ドくん
ドくん
ドくん

「ふぅ、種付け完了っ」
『…あ…あぁ…う…うぇぇ…』
「うと、初めてだったのにやりすぎちゃったね
次は優しくするから、そんなに泣かないで？」
『ひぐっ…っ…次って…』
「君も気持ちよくなれるまで
い～っぱいセックスしようねっ」
『ひくっ…も…いゃぁ…おうち…えぐっ…帰して…』
ぐすっ
ぐすっ

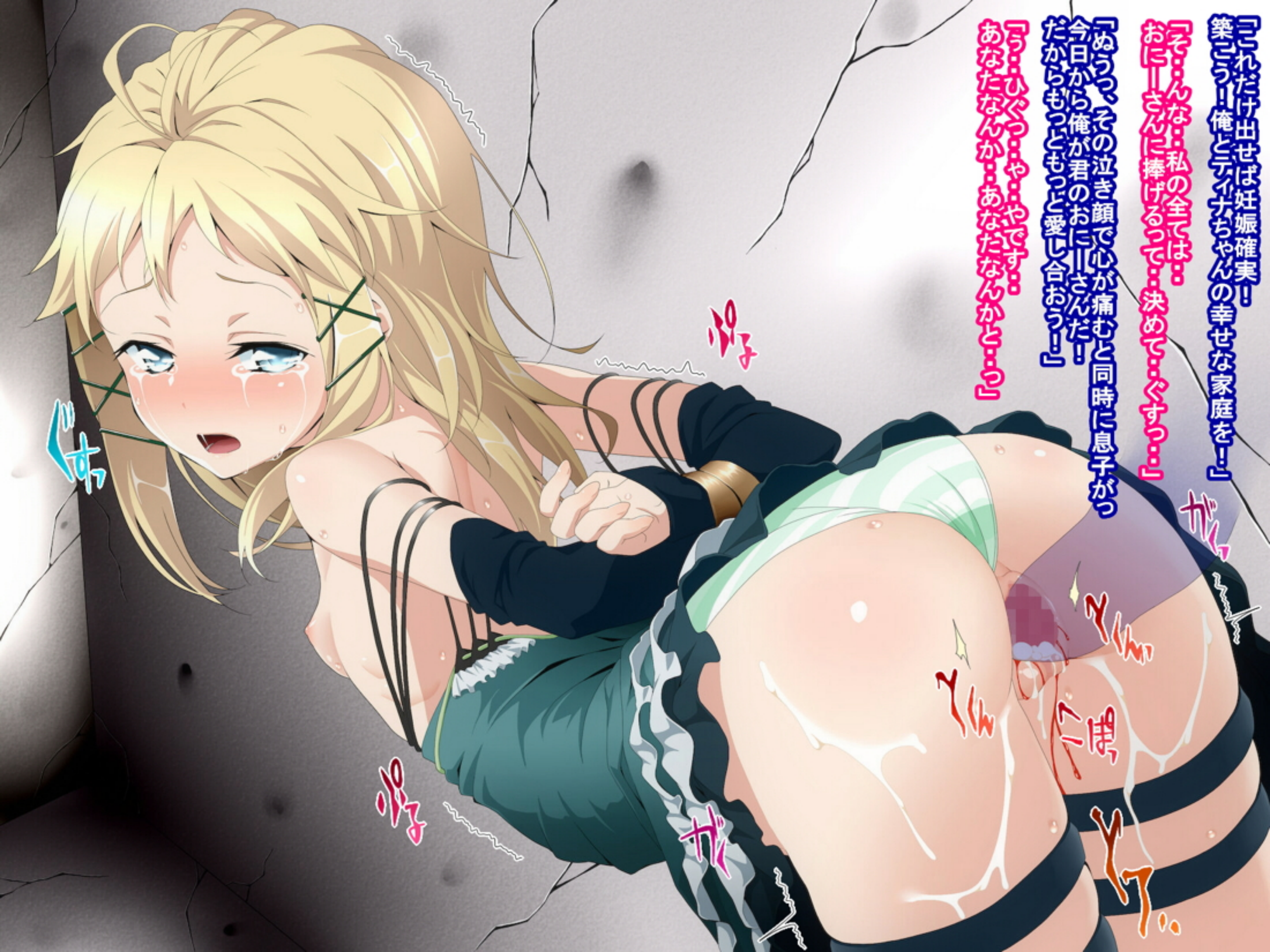
「はぁっはぁっ！気持ちいい？おじさんのチンポ気持ちいい？」
「…あ…あ…ああ…」
「まだ駄目か…君が気持ち良くなるまでおじさんいっぱい頑張るからねっ、フンフンッ！」
「…う…あ…あ…だ…誰か…たす…け…」
ずぽっ
ずぽっ
ぐちゅっ
ぐぽっ
ぐぽっ

『ティ、ティナちゃんの小振りで可愛いお尻…
し、辛抱たまらん！』
『一般の方に力を使うのは気が引けますが…
これ以上調子に乗るようでしたら容赦はしませんよ…？』
『ラッ、ティナちゃんにヤられるならそれも本望よ…
だがしかし俺はっ！』
『な…何を？』
ぐぐっ…
ぎちぎち
ぎちぎち

「やられる前にヤるっ！」
「な・・ああっ？」
「うおおっ！ティナちゃんの初マンコゲットォォ！想像通りのキツマンだけど奥まで一気にフンっっ！」
「あっっっ、がっっっっ？」
ずん！
ずん・・
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン！


「はぁっ、はぁっ！ティナちゃんのぷにぷにロリマン！気持ち良すぎてピストン止まらん！」
「あっ！やっ！やぁっ！い、痛っ！な、何ですかっ、これぇっ！」
「瞳の色が元に戻って…！そんなっいつもの可愛い顔で見つめられたら…っおおおっ！」
「あああぁぁっ！この固いので突かれるとっ、ひぐっ！お腹っ、熱くてっ、力が入らな…ひぅっ！」
ぐすっ
ぷるんっ
ずきっ
ずきんっ
パンッ
ぎちっ
ぎちっ
パンッ

「あぁ～出る出るっ！ティナちゃんマンコに子種汁出るぅ！」
「え…あ…ふぇ…？」
「分かる？今ティナちゃんのお腹の中に赤ちゃんの素が届いてるんだよっ」
「赤…ちゃん…？今…私の中に入ってきてるのが…？私…今…何をされて…」
ずくずくっ
びゅるっ！
びくんっ
きょりん
ぶびゅっ！
ぶびゅっ！
ぶびゅっ！
ぶびゅっ！
ぶびゅっ！
ぶびゅっ！


「これだけ出せば妊娠確実！築こう！俺とティナちゃんの幸せな家庭を！」
「そ…んな…私の全ては…おに―さんに捧げるって…決めて…ぐすっ…」
「ぬうっ、その泣き顔で心が痛むと同時に息子がっ今日から俺が君のおに―さんだ！だからもっともっと愛し合おう！」
「う…ひぐっ…ゃ…やです…あなたなんか…あなたなんかと…っ」
ぐすっ
ぽろ
ぽろ
ガク
ガク
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ

「あぁ〜程よくほぐれてきたぷにマンと突く度に可愛らしく揺れるちっぱいが俺を震え勃たせるぅ！」
『…あ…あぁ…も…やめ…ぐすっ』
「極め付けに天使のように愛らしいお顔と声！あぁ〜また出る!!ティナちゃんの子宮に孕み汁届けるぅ！」
『…あ…中で膨らんで…また…出されるんだ…れんたろーさん…私…もう…』
ぐすっ
ぐすっ
ぐすっ
ぷるんっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐぷっ

「ほ、ホントにこの格好でするのか・・?」
「もちろんです!」
「こういう事するために買ったんじゃないのに・・
あんまり汚しちゃ駄目だぞ・・?」
「努力はする方向で、それじゃいただきます!」
「あっ、コラ!・・んっ♥」
ドキドキ
キュッ!
はぁ・・
キュッ♥
くちゅくちゅ

「んっ♥んっ♥んうっ♥」
「声我慢しなくていいのにオマンコはこんなに素直なのになぁ」
「んっ♥はぁっ♥そっ、そんな事言われてもっ、んうっ♥は…恥ずかしいのだ…っ」
「恥ずかしがる延珠ちゃんもまた良しっ！」
はぁ♥
はぁ♥
ずぷぷ♥
くちゅ♥
まぁ♥
まぁ♥
くちゅ♥

「や、やば!!出る出る!」
「えっ、もっ、もう出るのか!?」
「ごめんっ、もう我慢出来な!!おおおっ!」
「ふわわっ♥ホントに出た♥こんなに沢山のせーし♥わらわのオマンコにおさまりきらないよぉっ♥」
はっ♥
はっ♥
ベタ♥
ベタ♥
ベタ♥
ゆ子♥
ゲくん♥
ゲくん♥
ゲくん♥
ゲくん♥

「ぬぅ・・我ながら何という早撃ち・・」
「こんなに沢山出たのだ♥
それだけ興奮してくれたということだろう？
わらわは嬉しいぞ♥」
「天使はここにいた！
延珠ちゃんもう一回オナシャス！」
「全く♥しょうのない奴なのだ♥」

「だ、駄目だっ、勃起が治まらん！今日はずっと子作りしようね延珠ちゃん！」
「す、するぅ♥子作りするぅっ♥二人目っ♥二人目作るのおっ♥」
「三人でも三人でも！うおおおおっ！」
「どっ、どうしよ、お股気持ちいいのっ止まらないよぉっ♥」
「可愛すぎる！好きだっ延珠ちゃん!!」
「わらわも好きっ♥大好きぃっ♥」
はぁ♥
はぁ♥
「だぁぁ♥」
ぢゅぷ♥
きゅん♥
きゅん♥
ぢゅぷ♥
ぢゅぷ♥

「な、なにをするの、水元くん…？」
「ほら、開かないように縛ってあげるから
ちゃんと見ててね…」
「ま、まさ…そ…そこ…♥」
「ほらほら縛りの甘い画像ばっかりだから
縛りの甘さを…」
ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ

「ふにゃっ!?」
「これくらいやんないとなぁ!」
「あっ♥やっ♥激しっ♥待って…くださ…っ
これじゃっ、私…動けな…にゃあぁっ♥」
「奉仕する側が悦んでどうすんだっての!
オラオラもっと腰を振るんだよっ」
「ふわわっ♥」
はっ
はっ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ぶしゅっ
ぶしゅっ
「ぁ…っ、ぁぁぁ…」
「ぁ…っ、ぁぁぁ…」
「理奈ちゃんの口淫で感じてるの？
おかしくなっちゃう…
ぁぁ、ぁぁ、ぁぁ、

「ふぅ…我ながら中々の量よ
こりゃもう一滴も出んわい」
「あ…はぁっ♥はぁっ♥」
「翠に奉仕はまだ早かったか？
まぁいいか、おい、そろそろ風呂にでも入って
「か…固い…です…」
「え？」
「おち…んちん…まだ…固いです…♥」
はぁ
はぁ
くちゅ
きゅん♥
きゅん♥
ぐぐっ
ぼ…

「ーしのぶ様」
「おっ、おれのちんぽ、ぶち込まれてるぅ…!」
「ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ」
「ぶちこまれてるぅ」
「ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ
ぶちこまれてるぅ

「あ…っ、きょ、今日もするんですか…？」
「当然！愛する者を抱かぬ日などないっ！フンッ！」
「あ…っ、やっ…んぅっ♥」
「ボテ腹になっても変わらぬプニプニのロリマンっ！まさに至高っ！」
ぐいっ
ぷにっ
がっ
ぷにっ
ぐぐぐ…
くちゅっ

「んっ♥んっ♥ひぅんっ♥」
「この奥ゆかしくも初々しい喘ぎ声が更にチンコを勃たせるわっ、ぬおおっ！」
「くぅんっ♥あっ♥やっ♥も、もっと…優しくっ赤ちゃんっ、びっくりしちゃ…んぅんっ♥」
「君が乱暴で強引なのが好きなのはこのマゾロリマンの締め付けで一目瞭然っ！今もキュンキュン締め付けてくるわい！」
「こ、これは違…っ、んくぅっ♥」
ぱんぱん！
ぐちゅ！
ぐちゅ！
ばちゅ！

「その可愛いらしい反応で辛抱たまらん！キュートなロリマンにドロドロの特濃汁を注入注入っ！」
「ふぁっ♥あっ♥やぁっ♥」
「受精で悦ぶ淫乱さも兼ね備えるとはまさに名器っ射精が止まらんわっ！」
「あっ♥やっ♥いやっ♥お股っ熱くて♥気持ちいいのっ♥気持ちいいのきちゃ♥あっ♥あっ♥あっ♥あああぁぁぁあっっ♥♥」
ドくん
ドくん
ドくん
ドくん
きゅん♥
きゅん♥
ドくん!
ドくん
ドくん
ドくん
ドくん

「…あ…はあっ…はあっ…」
「ぬうっ、このロリマンのヒクつき…っ
まだ足りないというのか…なんというエロさ！」
「え…あ…や…違…っ」
「よーし、おじさん頑張っちゃうぞ！」
「ま…待ってくださ…ひぅんっ♥」
はぁ
はぁ
ガクッ
ガクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「おじさんのチンポどうだい!?気持ちいい!?」
「はっ♥はっ♥はひっ♥すごっ…いですっ♥
奥まで突かれてっ、頭っ、真っ白になっちゃ…ひあっ♥」
「おじさんのチンポ好き!?」
「すっ、好きっ、ですっ♥
おじさんのオチンポっ、だいじゅきいっ♥」
「パーフェクツッ!これからもいっぱいセックスしようね!」
「すっ、するうっ♥せっくすっ♥
せっくすいっぱいするうっ♥
あっ♥あっ♥あっ♥あぁぁぁあっ♥♥」
はっ♥
はっ♥
ぐぷっ
ぐぷっ!
ぐぷっ!
ぐちゃ!
ぐぷっ!
ぐぷっ!

「うおっ！ティナちゃんその格好は一体!?」
「えへへ♥おにーさんが喜ぶと思って♥スカートは流石に入りませんでしたが・・どうでしょうか？」
「只でさえ愛らしいティナちゃんにこの可愛らしい衣装・・最高です！」
「喜んでいただけてなによりです♥」
「も、もう辛抱たまらんのですがっ」
「くす♥はい、どうぞ♥召し上がれ♥」
ぷに♥
にぃ♥
甘噛♥

「うおおおティナちゃん好きだあああ！」
「あっ♥やっ♥そんなっ、いきなり激し・・っ！お腹の赤ちゃんがびっくりしちゃいますよぉ♥」
「ごめんねティナちゃんっ、ティナちゃんが可愛すぎてっ！我慢出来ないっ！」
「あっ♥あっ♥あっ♥だめっ♥それだめえっ♥おちんちんで子宮こつこつだめえっ♥」
はァ♥
はァ♥
ニァ♥
ニァ♥
ぱぱぱ！
ぱちゅ！
ぱぱぱ！

「だっ、だめだ！出るっ！出ちゃうよティナちゃんっ！」
「あんっ♥いいんですよっ♥ティナのおまんこに沢山っ！おにーさんの熱いのだしてくださいっ♥」
「あぁ～出る出るっ！今までで一番濃いの出るっ！」
「わっ♥すごいすごいっ♥おにーさんすごいですっ♥私の中に沢山届いてますよっ♥」
「ぐうっ、射精っ、止まらなっ！」
「大丈夫ですよっ♥私が全部受け止めますからっ♥おにーさんの溜まったモノっ、全部出してください♥」
びゅくん
びゅくん
きゅん♥
きゅん♥
ばしゃ！
ずくん！
ずくん！

「はぁっ、はぁっ、や、やっと止まった・・」
「お疲れ様でした、おにーさん♥」
「ううっ、ごめんティナちゃん・・俺だけ盛り上がっちゃって・・」
「おにーさんが気持ち良くなってくれれば私はそれで♥それに、おにーさんがイク時の顔、可愛かったですよ♥」
「ぐぬぬっ、勃ちあがれマイサン！今度は俺達がティナちゃんを気持ち良くする番だ！」
「くす♥まるで子供みたいなおにーさんです♥」

「おおおおおおおおっ！」
「やっ♥あっ♥あっ♥すっ、すごいですっ♥まだこんなに固くてっ♥あぁあっ♥」
「うおおっ好きだティナちゃん！愛してる！」
「あっ♥あっ♥おにーさんに好きって言われるっ♥いっ、イクッ♥イクイクッ♥またイっちゃうううっ♥」
「はぁっはぁっ、ずっとっずっと一緒にいようティナちゃん！」
「はっ、はいっ♥私はずっとっ♥ずっとおにーさんと一緒にっ♥あぁあぁあぁっ♥♥」
はぁ♥
どくっ♥
ぐちゅ♥
ぐちゅ♥
ぐちゅ♥
はぁ♥
きゅん♥
きゅん♥
ぱぱぱぱ♥
ぱぱぱぱ♥